

Shakespeare Newsletter

日本シェイクスピア協会会報

2015 No.1

(通巻 Vol. 55 No.1)

Shakespeare Newsletter

日本シェイクスピア協会会報

2015 No.1
(通巻 Vol. 55 No.1)

目次

会長挨拶	1
荒井良雄先生を偲んで	2
2015年度シェイクスピア祭報告	4
第54回シェイクスピア学会のお知らせ	4
第55回シェイクスピア学会セミナーテーマ募集のお知らせ	4
55周年記念論文集募集のお知らせ	5
<i>Shakespeare Studies: the 400th anniversary special issue</i> のお知らせ	6
2014年度決算報告・2015年度予算	7
2014年度シェイクスピア基金会計報告・2014年度日本シェイクスピア協会 国際交流資金会計報告・2014年度国際交流フェローシップ会計報告	8
国際交流フェローシップ募集のお知らせ	8
2015年度簡易会員名簿作成のお知らせ	8
日本シェイクスピア協会事業運営へのご寄附について	9
NOTICE BOARD	9
ホームページ掲載内容のお知らせ	10
日本シェイクスピア協会賛助会員名簿	10

2015 年度を迎えて

井出 新

本年度より2年間、日本シェイクスピア協会の会長を務めさせていただくことになりました。『マクベス』の台詞を借りますと、一寸法師が巨人の衣装を着たかのように、会長職は私の身の丈に全く合わないのですが、学識と見識において大変優れた委員の先生方に支えられて、どうかこうにか協会の運営にあたらせていただきますので、ご支援ご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。新体制のつつがない船出のために、中野春夫前会長、そして由井哲哉前事務局長より、委員の交代時期、年度を跨いで様々なお心遣いやご配慮をいただきました。この場を借りて心から御礼を申しあげます。また昨年度まで委員としてご尽力くださった諸先生にも深く御礼を申しあげます。

去る4月の総会で任本規子議長のご司会のもと、昨年度の活動について会員の皆様にご報告を行い、また今年度の活動と予算案をご承認いただきました。引き続き行われたシェイクスピア祭では、第一部で井上優先生と劇作家・演出家の青木豪氏によるトーク「シェイクスピアの料理法」、第二部では太田一昭先生による講演「シェイクスピア時代の『検閲』とはなにか」が行われ、シェイクスピアと演劇の楽しさ・奥深さを多くの聴衆の皆さんと分かち合う機会となりました。総会にお集まりいただいた“happy few”の会員の皆様に、また企画と準備を陰日向になりお助けくださいました“band of brothers and sisters”の皆様に、心から御礼申しあげます。

総会でご承認いただいた事務局移転の準備についても手短にご報告させていただきます。現在、シェイクスピア協会全体の予算が逼迫しているため、多くの会員の方々からの寄附、ご厚意やご奉仕をいただいております。会員の皆様のご協力によってシェイクスピア協会が支えられておりますことは、本当にありがたいことですし、また引き続き、会員の方々から善意やご厚意を得られるシェイクスピア協会でありたいと願っております。ただその一方で、会員数減の中、そうした寄附やご厚意を受けなければ協会を運営できないという状況は不健全であるように思われますし、そうした体質をどうかして改善していく努力が必要です。

そこで今後、数年をかけて事務局経費（具体的には事務局の室料）を軽減することで会計全体の健全化を図りたいと思います。最終的には2019年に事務局を現在の研究社ビルから大学の個人研究室に移し、室料の出費をなくします。そのために越えなければならないハードルはいくつか存在するのですが、今後それを一つ一つ丁寧にクリアしていく所存です。会員の皆様にご迷惑をおかけすることなくゴールを切れるよう慎重に進めていきたいと思っておりますので、どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

大盛況の中、シェイクスピア祭を終えたのがつい先日だと思っていたら、もうすぐそこにシェイクスピア学会が近づいてきています。10月、北海道教育大学函館校にて皆様とお目にかかれることを楽しみにしております。

“Society, saith the text, is the happiness of life.” (LLL, 4.2.)

荒井良雄先生を偲んで

石原 孝哉

荒井良雄・駒沢大学名誉教授が去る4月8日に逝去された。

その生涯を振り返ってみると、まさにシェイクスピアとともに人生を駆け抜けたかの印象がある。一般にシェイクスピア学者というと、難解な資料や膨大な研究書と格闘している姿を連想するが、荒井良雄先生はシェイクスピアが劇場で役者たちに台本を供給し続けた座付き作家であったという事実から目を離すことはなかった。

晩年先生はシェイクスピアの魅力について書かれているが、その最大の魅力は普遍性、すなわち人種や宗教や主義を超え、国境を越えてすべての人に訴えかける力であるという。万人の心を持つシェイクスピアは日本の文化とも通じるとの信念から、シェイクスピアを自家菓籠中のものとして傑作を世に送った黒澤明監督を高く評価し、積極的に海外にも紹介した。その一例は、黒澤明の『悪い奴ほどよく眠る』が実は『ハムレット』を土台にしたものであることを国際学会のシンポジウムで取り上げ、日本文化の中に浸透したシェイクスピアの側面に光を当てたことに見られる。歌舞伎、能、狂言などの日本の舞台芸術の素材としてもシェイクスピアが活用できると考え、和泉流の新作狂言『じゃじゃ馬馴らし』と、英語による狂言『十二夜』を第5回国際シェイクスピア学会で上演することに奔走した。晩年の作品である『ブライス禅の世界 平和は詩心から』や『ZEN IN ENGLISH CULTURE (Understanding Blyth Zen)』（ともに北星堂）はこの分野における集大成である。

先生が挙げられているシェイクスピアの魅力の中に「やさしさと寛大さ」、「人間描写」があり、これらは数多くの著作のバック・ボーンとなり、荒井シェイクスピアの顔となっている。もう一つは「英語表現の魅力」である。既に学生時代から、シェイクスピアの詩的想像力が生んだ語彙の豊かさと言葉のエネルギーに圧倒されていた先生は、名場面、名セリフを集めた多くの著作を通してその魅力を紹介している。先生流の〈シェイクスピアを読む〉は文字通りシェイクスピアの作品を音読することから始まった。朗読によってシェイクスピアの詩的なエネルギーを引き出すのは、もっとも得意とするアプローチで、依頼があればどこでも気軽に外かけて朗読を披露した。このような活動の典型的な例が1987年から5年の歳月をかけてシェイクスピアの全作品を朗読するという壮挙であった。しかも、プログラム、ポスター、小道具、演出プランに至るまで何から何まで一人でやり遂げたのである。その記録は『朗読シェイクスピア全集の世界』（新樹社）に収められている。

シェイクスピアは机上の空論では理解できないと考える先生は、舞台とシェイクスピアを切り離して研究する方法を取らなかった。役者や脚本家や観客などが一体となって作り出すのが芝居であるとの原点に立っておられた。『シェイクスピア劇上演論』（新樹社）、『シェイクスピア劇の翻訳と演出一坪内逍遙と加藤長治』、『戦後日本のシェイクスピア—国際化から二十一世紀へ』（ともに英光社）はその様な視点から書かれたものの一部である。

御尊父の荒井良平氏が映画監督であったことから、映画にも造詣が深く、この分野に関する著書も多い。『シネマ名言集』（芳賀書店）、『愛の名場面、名セリフ』（英潮社）、『名優名場面 名セリフ』（英潮社）、『映画と英語を一緒に』（日本英語教育協会）、『イギリス演劇と映画』（新樹社）などはその例である。

英語は楽しいもので、すぐに役立つものであるというのも先生の持論であった。英語教育といえば、教育原理や難解な英語の理論が全盛であった時代に、わかりやすい先生の英語は新鮮であった。NHK教育テレビの『英語講座』、文化放送ラジオ『百万人の英語』などは英語教育に新風を吹き込むもので、これをきっかけに英語に親しむようになった人々は数知れない。

先生を語る時に忘れてはならないのが、先生が学者離れた行動力の持ち主であったことである。朗読会や講演会に限らず、直接舞台に上がることさえいとわなかった。数多くのワークショップを立ち上げ、多彩な活動を繰り広げた。特筆すべきは、ロンドンにシェイクスピアのグローブ座を再建しようとのプロジェクトが提唱されたとき、日本からもこれを支援しようとして立ち上がったことである。その発起人であるサム・ワナメイカー氏はハリウッドの映画俳優であり、監督も手がけた傑物であるが、本場のロンドンでグローブ座が1644年に解体されて以来、今日まで再建されていないことを憂慮し、1971年にカナダのバンクーバーで開催された世界シェイクスピア会議でグローブ座再建を提案した。再建案は満場一致で採択されたものの、実際に資金や人材を提供してくれる人は少なかった。このためにサムは文字通り私財をなげうって奮闘した。15年の歳月をかけてバンクサイドに土地を確保し、それからシェイクスピアの時代の木造のグローブ座を再建するという本来の目的に向かって更なる活動を続けていった。

先生は早くからグローブ座再建運動に協力し、日本で多彩な活動を繰り広げた。5年にわたるシェイクスピアの全作朗読も支援活動の一環で、収益はすべてグローブ座に寄付された。当時筆者が所長を務めていた駒沢大学シェイクスピア・インスティテュートも全面支援を決定し、国際シェイクスピア・グローブ・センターの日本支部をわがインスティテュートに同居させることにした。ワークショップを開いたり、丸善でシェイクスピアとグローブ座展を開催したり、サムを支援者に紹介したりと、やることは山ほどあった。ロンドンの仮設のグローブ座でシェイクスピアと日本についてのワークショップを開催したこともあった。終了後、サムは行きつけのパブ〈ジ・アンカー〉で労をねぎらってくれた。先年ロンドンを訪れたときに懐かしく思ってそこを訪れると、そこにはサム・ワナメイカー氏のお気に入りの席との立札がかかっていた。

我々が主催したサムの講演会やリサイタルは満員だったが、多くは学生であったために、資金援助という点では非力であったにもかかわらず、サムは何度も筆者の研究室にも足を運んでくださった。最後にお会いしたときにはかなり疲労困憊していたように思われた。後で知ったことだが、当時すでに癌が進行し、無理を押しでの来日であった。1993年12月18日、サムは前立腺癌で世を去った。グローブ座が完成したのはそれから4年後で、エリザベス2世の臨席の下に開かれた開所式には、先生も多くの関係者を伴って出席した。

このほかにも先生は様々なプロジェクトを立ち上げたり、支援したりしているが、多くの場合縁の下の力持ちを演じ、決して自分の業績を吹聴するようなことはなかった。こうしたプロジェクトの成果の一端は、『シェイクスピア大辞典』（日本図書センター）や『オスカーク・ワイルド事典』（北星堂）などにみられる。

先生に最後にお目にかかったのは、死の1か月ほど前であった。その折もいつもの通り夢を語り、今の仕事に助言をいただき、次の計画の構想に花を咲かせた。最後まで前向きに、目的に向かって邁進した79年間であった。

心より御冥福を祈る。

（駒沢大学名誉教授）

2015年度 シェイクスピア祭報告

2015年度シェイクスピア祭を、日本英文学会共催で4月25日(土)午後1時より、明治大学(東京都千代田区神田駿河台)駿河台校舎(リバティタワー)1022教室にて開催いたしました。

野田委員の司会により、井出会長の挨拶の後、第1部：青木豪氏(劇作家・演出家)、聞き手、井上優氏(明治大学准教授)による対談「シェイクスピアの料理法」が行われました。続いて第2部：太田一昭氏(九州大学教授)による講演「シェイクスピア時代の『検閲』とはなにか」が行われ、日本英文学会理事、原田範行氏の閉会の辞をもって盛況の裡に閉会いたしました。

なお、2015年度シェイクスピア祭の詳細は当協会ホームページに掲載しております。

第54回シェイクスピア学会

共催：函館英語英文学会 後援：北海道教育大学函館校

2015年10月10日(土)・11日(日)

北海道教育大学函館校にて開催

第55回シェイクスピア学会セミナーテーマ募集のお知らせ

第55回シェイクスピア学会は、2016年10月8日(土)、9日(日)に慶應義塾大学(東京都港区三田)で開催される予定です。日程および会場が確定次第、*Shakespeare Newsletter* およびホームページでお知らせいたします。

第55回シェイクスピア学会でのセミナーのテーマを下記のように募集いたします。ふるってご応募くださいますようお願い申し上げます。

応募要項

1. 次の(A)または(B)について(両方でも可)、電子メールまたはファックスを用いて、「日本シェイクスピア協会事務局」あてにご応募ください。学会開催時に配布するアンケート用紙を郵送していただいても結構です。

- (A) セミナーで取り上げて欲しいテーマ
(コーディネイター名も、もしあればお書きください)
- (B) ご自分で企画・運営したいセミナーとそのテーマ

2. 締切は2015年10月30日(金)、当日必着です。
3. ご提案を含めて委員会で検討のうえ、セミナーを複数設定いたします。
4. セミナーの内容・セミナーメンバー募集については、2016年3月までに *Shakespeare Newsletter* やホームページでご案内いたします。
5. 送信および送付先は以下のとおりです。

①電子メール： ssj-submission@nifty.com
(件名に「2016セミナーテーマ案」と記してください)

②ファックス：03-3260-8109

③郵送：〒162-0825 新宿区神楽坂1-2 研究社英語センタービル3F
日本シェイクスピア協会事務局

55周年記念論文集募集のお知らせ

日本シェイクスピア協会では、協会創立 55 周年ならびにシェイクスピア没後 400 周年を記念して、日本語による記念論文集の刊行を決定し、広く会員の皆様の論文を募集することとなりました。以下の応募要領にしたがって、ふるってご応募ください。

論文集の内容：シェイクスピア作品論（応募要項 1 にあげた作品に限る。正式のタイトルは刊行時に決定。）
 出版社：研究社
 応募締め切り：2015 年 9 月 15 日
 刊行予定：2016 年 10 月

応募要項

1. 下記にあげたシェイクスピアの作品を一つとりあげ、その作品を中心に論じること。研究方法に関しては制限を加えない。(7)と(8)は、合わせて一つの作品として論じても構わない。
 - 喜劇： (1) *A Midsummer Night's Dream* (2) *The Merchant of Venice*
 (3) *As You Like It* (4) *Twelfth Night* (5) *All's Well That Ends Well*
 - 歴史劇： (6) *Richard III* (7) *Henry IV, Part I* (8) *Henry IV, Part II* (9) *Henry V*
 - 悲劇： (10) *Romeo and Juliet* (11) *Julius Caesar* (12) *Hamlet* (13) *Othello*
 (14) *King Lear* (15) *Macbeth*
 - ロマンス劇： (16) *The Tempest*
 - 詩： (17) *Sonnets*
2. 応募論文は和文で書かれ、未発表のものであること。ただし、口頭のみですでに発表されているものは、その旨明記されていれば審査対象となる。
3. 無記名審査を行なうため、論文には応募者の名前を記さずに、論文標題と本文、および注という体裁とすること。
4. 論文は、注を含めて 14,000 字以内で、ワープロで作成し、A4 版用紙（横置き）に縦書き 40 字× 25 行で印字すること。
5. 注は論文末尾にまとめてつけること。小見出しをつけること。小見出し、表記方法、注の形式、引用の仕方など論文の書式に関しては 50 周年記念論文集『シェイクスピアと演劇文化』（日本シェイクスピア協会編、2012 年）を参照すること。
6. 上記要領で作成された論文のハードコピー 5 部に、応募者氏名、論文標題、所属、現住所、電子メールアドレス、必要な場合には口頭発表に関する注記を記した別紙のカバーレターを添えて事務局に郵送すること。
7. 原稿は返却しない。
8. 論文の採否は委員会が決定し、採否は追って通知する。
9. 採用された論文については、委員会が印刷用に WORD(.doc, .docx)、またはリッチテキスト形式(.rtf)の電子ファイルの提出を求めることになる。

以上

*Shakespeare Studies: the 400th anniversary special issue*のお知らせ

2016年は1616年に亡くなった劇作家の没後400年を記念する年となります。2016年春に発行予定の*Shakespeare Studies*は、これを記念する特別号を予定しており、劇作家であり詩人であったシェイクスピアの作品に関する論文を募集いたします。特別号への投稿締め切りは、2015年9月30日です。

April 23, 2016 will mark the 400th anniversary of the playwright's death in 1616. We are seeking essays on all aspects of Shakespeare's work for a special issue of *Shakespeare Studies* which will appear in spring 2016. To be considered for publication in this issue, all essays must be received by 30 September 2015.

〈*Shakespeare Studies: the 400th anniversary special issue* 投稿規程〉

1. 投稿論文(研究論文)は未発表のもので、他の雑誌に掲載される予定がないものであること。ただし、すでに口頭で発表し、その旨を注に明記している場合には、審査の対象となる。
2. 研究論文は、英文で**6,000 words**程度の長さであること(注は、これに含まない)。注は、脚注とする。投稿者の名前、謝辞等は論文そのものには記さず、カバーレターに記すこと。採用された場合は、謝辞は注の冒頭に置かれる。カバーレターには、原稿のタイトル、氏名[ふり仮名つき]、現在の所属、連絡用の住所、電話番号、ファックス番号、電子メールアドレスを明記すること。
3. 投稿論文は電子メールで提出すること。WORDファイル形式(.doc, .docx)、あるいはリッチテキスト形式(.rtf)で作成・保存し、添付ファイルで日本シェイクスピア協会の提出用アドレス ssj-submission@nifty.com まで送信すること。受領確認後、事務局から受領確認メールを送る。提出後7日以内にそれが届かない場合、投稿論文が事務局に届いていない可能性があるので必ず再送信すること(ただし、8月、年末年始の事務局休暇期間は休暇明けに受領通知を送る)。
4. 書式上の注意については協会HPの'*Style Sheet for Shakespeare Studies*'を参照すること。
5. 応募論文の採否は、編集委員会が決定する。採用論文の掲載に先立ち、編集委員会は書き直しを求めることがある。
6. 校正は、原則として初校に限り、執筆者が行なうこととする。この際、加筆・訂正は表記および事実の誤りに関するもののみとし、それ以外は認めない。
7. 英語を母語としない投稿者は事前に必ず、英語を母語とする人によるチェックを受けること。
8. 論文中に掲載される図表や写真その他の掲載資料は、採用が決定した際には投稿者自身が著作権者の許可を受けた上で慎重に引用すること。
9. 掲載された研究論文の著作権は、日本シェイクスピア協会に属するものとする。

以上

2014 年度決算報告 (2015.3.31)

【収入の部】

繰越	¥	4,651,851
会費		4,604,805
寄附		438,000
雑収入		42,791
(2014 年度収入計		5,085,596)
.....		
.....	¥	9,737,447

【支出の部】

寄附関連	¥	854
<i>Shakespeare Studies</i>		395,886
(発送料金含む)		
<i>Shakespeare Journal</i>		566,156
(Newsletter・発送料金含む)		
シェイクスピア祭		208,369
シェイクスピア学会		621,131
(小委交通費含む)		
委員会費		1,240
事務局経費		699,077
(PC 積立金等含む)		
HP 運営・管理費		54,632
事務局人件費		1,334,418
一般印刷費		73,580
通信郵送費		224,430
交通費		366,170
委員選挙引当金		181,653
(2013 年度引当金以外)		
消耗品費		154,965
予備費		0
(2014 年度支出計		4,882,561)
.....		
繰越		4,854,886 *
.....		
.....	¥	9,737,447

2015 年度 予算

【収入の部】

繰越	¥	4,416,886 *
会費		4,640,000
雑収入		32,000)
(2015 年度収入計		4,672,000
.....		
.....	¥	9,088,886

【支出の部】

<i>Shakespeare Studies</i>	¥	400,000
(発送料金含む)		
<i>Shakespeare Journal</i>		450,000
(Newsletter・発送料金含む)		
シェイクスピア祭		160,000
シェイクスピア学会		600,000
(小委交通費含む)		
委員会費		2,000
事務局経費		710,000
(PC 積立金等含む)		
HP 運営・管理費		54,700
事務局人件費		1,335,000
一般印刷費		70,300
通信郵送費		200,000
交通費		500,000
委員選挙引当金		160,000
(『簡易会員名簿』作成費含む)		
消耗品費		120,000
予備費		30,000
(2015 年度支出計		4,792,000)
.....		
繰越		4,296,886
.....		
.....	¥	9,088,886

*[註]2014 年度繰越金¥4,854,886 中、寄附金¥438,000 を『シェイクスピア基金』へ繰入。
よって 2015 年度開始時の繰越金は ¥4,416,886 となる。(2015 年度予算【収入の部】繰越金額参照)

2014 年度 シェイクスピア基金 会計報告 (2015.3.31)

【収入の部】

繰越	¥	1,188,462
預金利息他		12,633
.....		
	¥	1,201,095

【支出の部】

Journal 関連	¥	196,300
(準備・デザイン代)		
製本代		78,946
(Studies、News)		
その他		384
.....		
	¥	275,630

2014 年度残高 ¥ 925,465 **

**[註 2]一般会計 2014 年度繰越金中、
寄附金 438,000 円を『基金』へ繰入。
よって 2015 年度開始時の『基金』
繰越金は¥1,363,465 (925,465+438,000)。

2014 年度 日本シェイクスピア協会 国際交流資金会計報告(国際交流 フェロシップをのぞく) (2015.3.31)

【収入の部】

繰越	¥	2,047,978
預金利息		90
.....		
	¥	2,048,068

【支出の部】

なし

2014 年度残高 ¥ 2,048,068

2014 年度 国際交流フェロシップ 会計報告 (2015.3.31)

【収入の部】

繰越	¥	4,819,174
預金利息		782
.....		
	¥	4,819,956

【支出の部】

なし

2014 年度残高 ¥ 4,819,956

国際交流フェロシップ募集のお知らせ

審査時期は 4 月、10 月の年 2 回ですが、規定どおり参加を予定している学会の開催日より 2 ヶ月前以前の応募であれば、審査の対象となり、さかのぼっての支給となる場合もあります。ふるってご応募ください。応募要件その他の詳細は本協会のホームページをご覧ください。

2015 年度簡易会員名簿作成のお知らせ

2015 年度簡易会員名簿を 2016 年 2 月末に作成する予定です。2013 年度簡易会員名簿作成時より所属等に変更があった会員は、2015 年 1 月末日までに事務局までご報告ください。特に連絡がない場合は、2013 年度と同じ内容で掲載いたします。

また、2016 年 4 月以降に所属変更の予定がある場合も、その旨、明記の上、お知らせいただければ幸いです。

日本シェイクスピア協会事業運営へのご寄附について

日本シェイクスピア協会委員会では、学会開催、*Shakespeare Studies* や *Shakespeare Journal* の刊行などといった協会の事業運営へのご寄附をお願いしております。

平成 27 年 2 月 21 日から 7 月 31 日までに皆様からお寄せいただいたご寄附の総額は、95,600 円となりました。ご寄附いただいた方々のお名前をここにご報告させていただき、皆様のご理解とご協力に対して心より御礼申し上げます。

寄附者名簿 (50 音順)

安達まみ様、岩崎宗治様、川井万里子様、楠明子様、住本規子様、山田昭廣様、
Prof. Mihoko SUZUKI、匿名希望 1 名 (以上 8 名)

NOTICE BOARD

◆ 2015 年 3 月 6 日 *Shakespeare Studies* Vol. 52 が刊行された。

◆ 2015 年 3 月 27 日 *Shakespeare Journal* Vol. 1 が刊行された。

◆ 2015 年 4 月 11 日 2014 年度会計監査。

◆ 2015 年 4 月 25 日 第 1 回定例委員会を午前 10 時より明治大学にて開催。議題は以下の通り。1) 2014 年度事業報告、2) 2014 年度決算報告及び会計監査報告、3) 2014 年度事業計画案、4) 2015 年度予算案、5) 2015 年度委員会日程、6) 事務局移転について、7) その他。

◆ 2015 年度委員業務分担及び監事その他は以下の通り (敬称略)。

(会長) 井出新

(総務) 竹村はるみ [事務局長]、廣田篤彦 [財務]、篠崎実 [庶務]、山田雄三 [庶務]

(学会・ワークショップ) 阿部曜子、石橋敬太郎、清水徹郎、(山田雄三)

(*Shakespeare Studies*) 近藤弘幸、小町谷尚子、桑山智成、(廣田篤彦)

(*Shakespeare Journal*) 岩田美喜、南隆太、小林潤司、(篠崎実)

(行事) 野田学、(井出新、竹村はるみ)

(ホームページ) 小町谷尚子

(監事) 新谷忠彦、前沢浩子

(*Shakespeare Studies* / *Shakespeare Journal* 組版) 原英一

(*Shakespeare Newsletter*) 事務局長、総務、事務局 (組版)

◆ 2015 年度総会。4 月 25 日正午より明治大学にて開催。住本規子氏を議長に選出したのち、以下の議題について、審議が行われ、委員会から提出された議案が承認された。1) 2014 年度事業報告、2) 2014 年度決算報告及び会計監査報告、3) 2015 年度事業計画案、4) 2015 年度予算案、5) 事務局移転について、6) その他。

◆ 2015 年度シェイクスピア祭。日本英文学会と共催で、同日午後 1 時より明治大学駿河台校舎 (リバティタワー) 1022 教室にて開催。野田委員の司会により、井出新会長の挨拶の後、第 1 部として、青木豪氏 (劇作家・演出家) と井上優氏 (明治大学准教授) による対談「シェイクスピアの料理法」を、第 2 部として、太田一昭氏 (九州大学教授) による講演「シェイクスピア時代の『検閲』とはなにか」が行われた。日本英文学会理事原田範行氏の閉会の辞をもって盛況のうちに閉会。

◆ 2015 年 7 月 11 日 第 2 回定例委員会を午後 2 時より慶應義塾大学三田キャンパス旧図書館会議室にて開催。議題は以下の通り。1) 第 54 回シェイクスピア学会 (於北海道教育大学函館校) について、2) *Shakespeare Studies*、*Shakespeare Journal* の刊行について、3) 奨励賞規程について、4) 学会懇親会余剰金の扱いについて、5) 学会の会員用お弁当手配の廃止について、6) その他。

◆ 訃報。元協会会員、荒井良雄氏が 4 月 8 日に死去された。

ホームページ掲載内容に関するお知らせ

2013年度より、以下の内容は原則としてホームページにのみ掲載し、ご要望があった場合は随時、コピーをとってお送りいたしております。

規約全文、シェイクスピア祭報告詳細、学会セミナー報告、ワークショップ報告、国際交流フェロローシップ応募要項、*Shakespeare Studies* 投稿規程、*Shakespeare Journal* 投稿規程。以上

日本シェイクスピア協会賛助会員名簿（五十音順）

板橋演劇センター
 インターナショナル・シアター・カンパニー・ロンドン（ITCL）
 エディション・シナプス
 オックスフォード大学出版局
 グローバル・リンケージ
 劇団 昴
 劇団 山の手事情社
 研究社
 ケンブリッジ大学出版株式会社
 文学座

SHAKESPEARE NEWSLETTER

日本シェイクスピア協会会報

2015（通巻 Vol.55）No.1

2015年8月17日発行

編集 日本シェイクスピア協会
 発行人 井出 新
 発行所 東京都新宿区神楽坂 1-2
 研究社英語センタービル 3F
 日本シェイクスピア協会
 (株)サイキクリエティブ

印刷

◎ 日本シェイクスピア協会 2015